

ほし 彩星だより 第96号



若年性認知症家族会・彩星の会会報

平成31年3月9日号

〒160-0022 新宿区新宿1-9-4 中公ビル御苑グリーンハイツ 605

TEL 03-5919-4185/FAX 03-6380-5100

E-mail:hoshinokai@beach.ocn.ne.jp

巻頭言

「認知症になっても怖くない」 社会をめざして



彩星の会代表 森 義弘

日本列島の各地で桜を観て楽しめる地方もあれば、根雪で難儀されている地方もあります。季節の変化を楽しめる介護生活であってほしいと願うばかりです。

昨年4月から代表となりまもなく一年を迎えます。小澤前代表の「温かい家族会」を今年も継続をしていく所存であります。みなさまの温かいご支援をお願い申し上げます。

昨年の「会費の納入率94%」の達成となりましたことを心よりお礼申し上げます。今年も引き続き、会費納入のご協力をお願い申し上げます。

今年は他の家族会との交流を通じて、介護に関する情報交換のできる場を増やすことを一つの目標としております。

彩星の会は「定例会」と「ほしだより」そして「相談業務」の重要項目があります。

まず、定例会は介護者の楽しい集いとして定着しており、昨年は毎回の集まりが平均46名です。そして、5月の新宿御苑散策は41名の参加者でした。二次会も毎回24名以上と好評です。

一方医療相談の先生方も昨年の6名から8名となり、みなさまからの介護医療相談にも一層の厚みができたのではないかと自負しております。

会報「ほしだより」は紙面も多彩となっております。とくに「人今人」は介護者が一番癒される記事として好評を得ております。昨年は、お二人の記事を同時に掲載した号もありました。また、以前に掲載しました「人今人」をアーカイブスとして再登場の企画も考えておりますのでご期待ください。

相談業務については、一層の充実をはかるために彩星の会ホームページの最初の見出しを「電話相談」としました。介護者からのご相談にお答えできるよう努力したいと思っております。

ところで、認知症というカテゴリーを考えると「長寿はしあわせ」と喜ばれた時代もありましたが、現在は「長寿。でも不安が先に立つ」の時代です。今の介護保

険制度などの仕組みは認知症の人が現在のように多くなる以前に制定されました。制度ができたころは認知症になる前に寿命がきて亡くなっていました。しかし、やがて4人に一人が認知症になる時代とも言われ、100歳人生とも言われる時代になります。多くの人が人生の後半は認知症と共に生きるとも言えます。

今、介護をされている人たちも、医学の発達で介護生活がすこし長くなることを意味しています。このように考えると「認知症にならないように」と身体と心を防御するだけでなく、「認知症になっても安心」といえる地域社会をつくる必要となってきます。

一例として公園のベンチです。通常は座る部分と背もたれの部分は同じ色で塗られております。認知症の人にとっては一枚の板に見えて座ることがとても不安です。座る部分と背中の部分は「色分け」することによって、安心して座ることができます。

最近ではスーパーのレジでの支払いが「セルフ・レジ」になり、認知症の人には操作できない支払機が増えています。また、コンビニに置かれているお湯を出すポットでも、蓋の上には操作ボタンが何種類もあり、どれを押していいのか迷います。楽しみの外出も、不安が先に立ちスーパーやコンビニにも出かけなくなり家に閉じこもりがちになります。

このような事例からも行政や企業は認知症のひとが利用しやすい工夫が必要になります。そのための参考に「定例会」などへの参加を呼びかける。

昨年は行政や区の職員からの参加もありました。今年は企業人に呼びかけたいとも思っております。

このように、定例会や会報「ほしだより」、さらにホームページなどで企業や行政に呼びかけをすることで、「認知症になっても怖くない社会」を目指していけるのが彩星の会ではないだろうかと考えております。



1 月定例会 報告



家族交流会・報告 「高橋正彦先生講演会」

高橋正彦先生

クリニック医庵たまプラーザ院長

平成元年(1989)に医師 1997~2001年スウェーデン留学

2001年 宮永先生などと彩星の会設立、顧問就任

(2006年まで)



[1] 認知症とはどういうものか

今の医学で認知症を克服することは難しい。

厚生省統計では85歳以上の人の認知症の割合は56%。研究統計では90歳台の人の認知症の罹患率は90%、100歳台では100%。遅かれ早かれ私たちは認知症になる。

認知症:脳の変性疾患。脳の神経細胞が失われてしまう病気

アルツハイマー:脳内にアミロイドが貯留。人間の脳の活動の結果=生理的な老化(現在の医学の認識)。

前頭側頭葉変性症、ピック病または意味性認知症:脳の中にタウ蛋白が変性。一部ではピック球が貯留、タウ蛋白変性の原因は未解明。前頭葉中心のピック病、側頭葉中心の意味性認知症。筋萎縮測索硬化症も同疾患群の一つ。

レビー小体型の場合 脳にレビー小体が溜まる、レビー小体の蓄積とアミロイドの蓄積はかなり関連がある。アルツハイマーとピック病が合併したケースは極めて希。

[2] 認知症の治療をどう考えればよいのか

認知症の治療は薬物療法より非薬物療法が主流になってきている。

非薬物療法=ケアそのものが認知症の治療(本人の「自己肯定感」をどう高く維持するか)

1. 環境の調整

若年性認知症の場合本人が早い段階から異常を意識し

ていることは多い。特に繊細な性格の人はかなり早い時期から気づいているがそのことを家族に言えず一人悶々としている。

人間は社会的動物。自分が必要とされている、自分があるために役立っているという気持ちをどうやったら作れるかが重要。

具体的にはケースバイケース。主治医、ケアマネ、周囲の人が話して決めるべき。

- できるだけ仕事は続ける
- 従来と同じ職場で頑張ってみても自分の能力の低下で自己肯定感が維持できないのであれば主治医と相談し対応を考える必要。

- ボランティア、デイサービスでの工夫
送迎車の助手席に座り送迎の手伝い、洗車などしたりして「自分はデイサービスに行っていて仕事をしている」という意識を持つことができるよう職員が工夫している例。デイサービスに行くか行かないかでなく、いかにして本人が自己肯定感を持てるようなプログラムを組めるかがデイサービスの腕。これがQOL(クオリティ オブライフ)に結びつく。

2. 対人関係 家族以外の人と定期的に交流する場が提供されること

人間は色々な集団に所属しそこで役割を持っている。認知症になると次第に所属集団が失われ精神状態を不安定にする(職場に行けなくなることで社会から分断)

- 地域とのつながり、家族とのつながりを維持できるよう支援。

(例)彩星の会への出席。本人同士の交流の中で仲間意識が芽生え

認知症カフェなど

- デイサービスを利用(引きこもりを防ぐためには老年期若年期を問わずに重要)。

- ソーシャルキャピタル(社会的資産)。本人がこれまでどれだけの友人関係や地域の人と関係を作っていたか。QOLを高める。家族はできるだけそのような友人に協力してもらい長続きできれば望ましいこと。

- 昔からの友人関係を大切にす。
- 認知症の有無にかかわらず普通の生活を送るノーマライゼーションが大切。毎日の生活はリズムカルに送りたまには友人や家族と外出するなどのイベントがあってそれを楽しみに毎日過ごすような生活が健全な姿。

3. 想定外事情の発生

想定外のことが発生すると体調を崩すことがよくある。

- インフルエンザで寝込んだことがきっかけで体調が悪化

- 大きなイベントがあってそのあと調子をくずしてしまう、

など
⇒暴力的な行為やいわゆる不適応行動(老年期に比べて振れ幅が大きい)。
その場合環境を変え一時的に入院させ安定した環境で過ごしてもらうことが治療的に効果が出ることもある。入院期間は1か月以内がベター。また病院を選択する場合ケアがしっかりした病院を選ぶべき。

4、家族について 老健事業で家族支援の研究報告書が年度末に出る予定。
家族の介護負担が本人の状態に影響を及ぼす。家族の介護負担が軽くなる状態であることが大切。そのためには家族介護相談を含めて非薬物療法的な対応をしてくれるような医師や支援者に恵まれたほうが家族負担が軽くなる。毎回30分以上掛けて介護相談を受けてくれるところもある。そのようなドクターを選んだほうがよい。

～以下質問に対する回答で印象に残ったこと～
(薬の耐性と投薬停止)

睡眠薬を常用すると効果がなくなる。突然やめるとリバウンドで眠れなくなる。これは脳の構造が変わってきて薬に対する感受性が変わってくるから。一部の向精神薬も常用すると効きにくくなる。アルツハイマー4剤について効果がなくなってくるという報告は現在のところはなく、いつ止めるかについてコンセンサスはないが、例えば言語的コミュニケーションが不可能になってしまった場合には投薬停止して良いのではないかと。それまで投薬で進行を遅らせることができたと信じる。メモリーは2011年に発売されたが初期から中期に良く使用される薬。重度化して眠気や足腰にふらつきが出てきた場合継続して飲むかどうかは主治医と相談してほしい。

(記憶について。海馬と扁桃体の関係)
アルツハイマー初期の場合、最初に障害が出るのが海馬の部分。扁桃体の部分への障害は少しあとになる。家族から怒られた場合、怒られた理由は忘れるが怒られた記憶だけ残る。

本人にとってネガティブな刺激は最小限にすることが重要。家族もできるだけネガティブなことを言わないようにしたほうがよい。また楽しい記憶よりいやな記憶のほうが残りやすい。動物にとって嫌な記憶の方が自分の生存にとって重要だから。10回楽しいことを言われても1回いやなことをいわれるとそちらのほうが残ってしまう。(ただ介護者にストレスがたまってしまふので夫婦であればたまには本人が自信をなくさない程度に喧嘩してもよいと思う)。

(幻視と「夜寝てくれない」ことへの対応)
幻視があっても慣れてしまふと怖いと思わないのならそのままよい。怖いなどネガティブな感情が起きているなら対応したほうがよい。
毎日デイに行っているのに夜寝てくれないのはデイのやり方が手ぬるいということ。変わることも選択肢。デ

イサービスの目的は精神的身体的疲労。そこで何をやるかが重要なポイント。何をやるかはケアマネと相談して決めるとよい。ガンガン運動するところもある。そこまでやっても夜間の幻視を訴えるのであれば薬物療法が必要かもしれない。
また家でばーっとしていてもデイサービスでシャキッとすることもメリハリのある生活として脳の活性化にはよい。

(病院へのアプローチ(プライドが高く脳外科病院へ同行させないとの質問))
陪席を拒否することなど事情を簡潔に書いた手紙を渡すのも一法。すると医師の方から家族も連れてくるように本人に話してくれる。脳外科の医師は大体認知症も診る。認知症専門の医師のほうがよいと判断したらそこに紹介状を書いてくれる。

(文責 羽鳥)



本人交流会・報告

ご本人は5人。そのうちお一人は講演会のほうに行かれたので、4人といういつもより少ないご参加人数で、サポーターさんのほうが多かった。こんな回もたまにはあるんですね。ご本人の参加人数はいつもふたを開けてみなければわからないぶっつけ本番で、世話人さんやサポーターさんは緊張しながらお迎えしていますから、ちょっと肩の荷が軽くなりました。

最初にイスに座ってストレッチ体操。サポーターKさんのリードで1、2、3、4、と手足首を伸ばしたりひねったり、ゆっくりゆっくり丁寧にピアノの音に合わせて体を動かしてとてもリラックスできました。



次にすごろくゲーム。手作りのサイコロがよい働きをして、なかなか上がれません。バツゲームに風船ふくらましと風船ガムテープ剥がしなどが割り込んできて、せっかくだがリラックスしたのに緊張が走りました。

賛助会員さんご紹介⑤



もぐもぐタイムは1月恒例の「お汁粉」。今年はお餅の代わりにあられを入れて、人肌に温められたお汁粉は、サラッと何杯もおかわりができる美味しさでした。



最後に「うた広場」、「ながしのイトーさん」のギターと歌声に癒されつつ、うたの世界に引きこまれてよい気持ちになりました。

もっともっと歌っていたかったのに終了時刻となりました。

(報告:S)

二次会報告

定例会終了後の二次会は、障害者福祉センターから徒歩10分の韓国料理「味韓」で開かれました。定例会参加の半数近く、27名の方が集合。講演をして頂いた高橋先生も参加して下さいました。

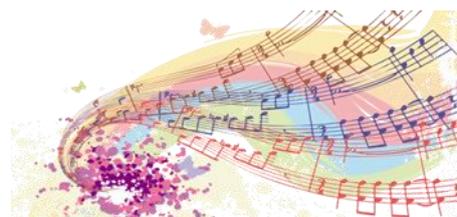
講演会で高橋先生のお話の中で、彩星の会発足当初、宮永先生、高橋先生と定例会に参加されたご本人、ご家族と一緒に帰り道、居酒屋の前を通ったら、ご家族から「寄っていこう」と話があったそうです。

お二人の先生は「認知症のご本人も一緒にお酒を飲んで大丈夫かな」と思いながら入ったところとても楽しく、次の会からは毎回二次会が開かれ恒例になりました。

彩星の会は二次会があってこそその定例会です。これを楽しみに参加する方もたくさんいます。本人、ご家族はお酒を飲みに行く機会が少なくなります。でも、ここでは皆さんが気を配り見守りながら、飲んで話して、情報交換、大笑いをする。

介護の疲れも吹き飛びます。
今回も楽しいひと時でした。

(報告:三橋)



『認知症、彩星の会との出会い』

加藤 彌生

平成17年9月「認知症でも大丈夫 指導者研修会」に参加して長谷川和夫先生の基調講演を受けました。

平成17年10月1日～12月3日まで50時間傾聴ボランティア（シニアピアカウンセラー）養成講座を受講、終了時に紹介がありまして、六本木でしたら自宅から近く参加出来ると思い、17年12月25日、「彩星の会・アラジン」へ参りました。

その時すでに70才を越していましたので、一寸場違いかと思いましたが、続けて参加してますうちに、皆様と顔なじみになり認知症本人の見守りサポーターを10年以上も続けてしまいました。

ボランティアを続けられますのも皆様の嬉しい気持ちが伝わって参りますからです。

これからも、私自身が元気であれば続けて参りたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

介護体験談 X

『浮気をしている』

Q ご主人が奥様の姿が見えないと「浮気をしている」といって騒ぐ

A 「そんなことない」の説明はまったく効果なし

介護体験談 IX

『同じこと』

Q 「同じことを何度も聞いたり、言ったりする」

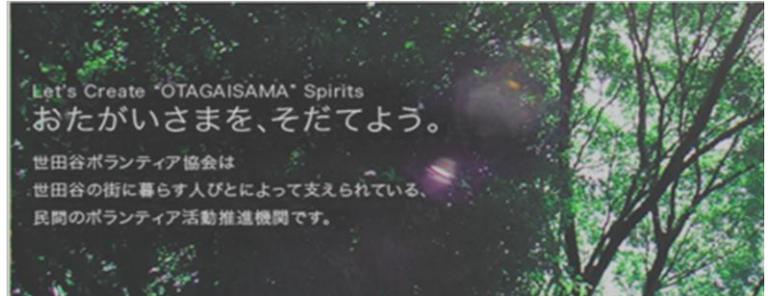
A 同じ説明を繰り返す方が、本人は覚えやすい

若年性認知症支援団体
紹介コーナー (3)



社会福祉法人世田谷ボランティア協会は1981年に世田谷区内のボランティアと行政機関が話し合っ
て設立された民間のボランティア市
民活動の推進機関です

「社会福祉法人世田谷ボランティア協会」



本部の所在地は、東急田園都市線三軒茶屋駅南口から、商店街を抜けて徒歩12分の住宅街のビルの1階にあり、以下のような各種事業を通じて、世田谷という地域の中でボランティア活動や暮らしをサポートしています。まず、福祉事業部で立ち上げた若年性認知症の方の相談窓口〈パートナーセンター〉についてご紹介します。

■福祉事業—福祉サービスのこと

福祉事業部では、2016年度から3か年、世田谷区から「認知症高齢者のための社会参加型プログラム推進事業」を受託し取り組んできました。これは、若年性認知症や認知症のある方々のプログラムを開発し、世田谷区内で実践することにより、**当事者が主体的な人生を取り戻すきっかけをつくること**、さらに、「**認知症**」の診断を受けた後の**孤立に苦しむ「空白の時間」をつくらず、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる世田谷の地域づくり**を目指しています。

このプログラムは、地域商店での軽作業ボランティア、地域の農園での農作業、保育園でのボランティア(絵本の読み聞かせ)などのボランティア活動。さらに、デイサービスでの地域とつながる手づくり作品開発(夏祭りでの白玉団子づくり、どらやきづくりなど)など、3か年で実施したプログラムの数は24に上りました。

〈私たちと一緒に〈認知症〉のこと話しませんか?〉

私たちは、この実践で出会った多くの方々の声を聴きくなかで必要性を強く感じた〈相談〉事業をスタートさせました。

〈認知症〉のことで悩んでいるわたし・家族・友人…どうぞ連絡をください。仕事のこと・治療のこと・これからの暮らしのことなどについて、若年認知症専門員がお話を伺い、一緒に考えていきます。

メールアドレス: partner@otagaisama.or.jp

電話: 080-3599-8812 (9:00~19:00)

■次に、その他のボランティア活動推進事業についてご紹介します。

★ボランティアコーディネイト事業—ボランティアをやってみたい、求めたい—ボランティア活動を始めたい人やグループ・団体と、ボランティアのサポートを必要としている人やグループ・団体をつなぎます。“こんなことができたらいいな”や“すごく困っています”など、どんな小さなことからでも気軽にご連絡を受け付けています。まずはお気軽にご連絡ください。

★せたがや災害ボランティアセンター事業

災害ボランティア問題に取り組むために、常設の活動組織として「せたがや災害ボランティアセンター」を設置し、日々の活動を続けています。

せたがや災害ボランティアセンターは、災害発生時には災害ボランティア本部として、世田谷区内で活動する災害ボランティアの拠点となります。世田谷区との連携のもとに、ボランティアの派遣ニーズを集約して、ボランティアの受付、派遣その他の調整を行います。

★ボランティア学習事業: 未来のボランティアになるための体験プログラムや授業協力を小学校、中学校、高校、大学で行っています。

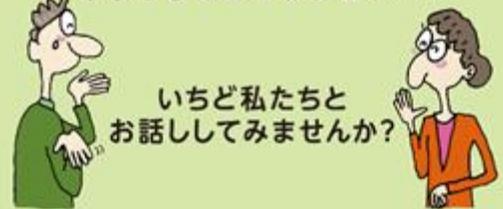
★せたがやチャイルドライン事業—子どものための電話

18歳までの子ども専用電話です。子どもの“心の声”によりそう活動を行っています。

以上が私どもの概要です。認知症のある方とともに歩んでいきたいと考えています。よろしくお願いたします。

若年性認知症相談窓口

若くても…
もしかしてニンチショウ…?



いちど私たち
とお話してみませんか?



『介護ガイダンス』

佐藤 善雄

妻(65歳)が前頭側頭型認知症と診断されたのは平成23年5月(58歳の時)。

医師からは「MRI検査では、前頭葉が収縮している。毎日車に乗って出かけるという病気独特のパターン化していることをやめさせると、万引き等反社会的行動にでることもある。免許証を警察に取り上げてもらうことが必要になる時期もあるかもしれない。反社会的行動等が発生した時にどうするかを考えておくことが、家族としてできることであり、重要なことである。この病気に対する薬はない。何か大きな変化があったら受診すること。」と告げられ、私は頭の中が真っ白になった。

自宅に帰り、ネットで病気について調べたところ、「早ければ余命2年、長くとも10年余り」との記載もあり、さらに愕然とした。そうであれば、できるだけ妻と一緒にいてあげようと思い、それからは毎日私が運転する車に乗せ、買い物やドライブに出かけたり、泊りがけで温泉に連れて行ったりしていた。

診断から3ヶ月半が過ぎた頃、病院のPSW(精神保健福祉士)の方から電話があり、若年性認知症の家族教室があることを知り、参加することにした。これが私の介護の「方向性」を決めることになったと言っても過言ではない。

月一回のペースで3回、テーマ別に「介護を語ろう!」「病気を知ろう!」「活用できるサポートは?」、各々2時間の教室が開催され、終了後には個別相談も用意されていた。出席者は、主催者である県保健所及び認知症疾患医療センターの各担当者、市介護関係の担当者、社協担当者、認知症地域支援推進員、家族会の世話人、介護経験者等で、2回目の「病気を知ろう!」では認知症専門医の先生が講師をされた。

3回目の「活用できるサポートは?」では、センター担当者が作成した「若年認知症の人と家族が活用できるサポート及び若年認知症の人の家計に役立つ各種制度(当該地域版)」や「若年性認知症の人と家族の支援ガイドブック(当該県版)」を基に、介護保険とそのサービス内容、障害年金、障害者手帳、自立支援医療制度について、概略的ではあったが、一連の説明がされた。

3回にわたる家族教室を受講して感じたことがある。それは、大学入学時に受けたガイダンスのように思えたことである。

家族教室が終了した時点(平成23年11月:診断後6か月)で、私の手元には①先生が作成された認知症全般の資料、②センターの担当者が作成した利用できるサポート等をまとめた資料、③県行政が作成した『若年性認知症の人と家族の支援ガイドブック』等があり、今後私が行うべき介護保険申請、障害者手帳、障害年金等の手続きや家族の会への入会の予定を整理することができていた。

もう一つ教室とは別に、第1回目の教室終了後、認知症地域支援推進員の方が若年性認知症の人と家族を支援して下さるとのことで、早速私に声をかけていただいた。

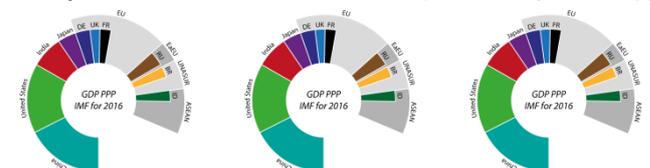
2日後には、「車を止めさせる手順」や「介護保険の申請」について説明を受け、平成23年9月26日付で介護保険申請書を市に提出している。これ以降は、しばらく車を止めさせることを優先させたため(免許証の返納は平成23年11月16日)、介護申請に伴う訪問調査は12月9日、そして介護保険要介護認定等の結果通知は平成24年1月13日付で、「要介護1」であった。1月24日には認知症地域支援推進員、地域包括、私の3者でデイサービスの事業所を決め(平成23年10月頃から事前準備をすすめていた)、2月1日には事業者も含めたデイサービス利用に向けた打合せをし、ケアマネジャーの選任、ケアプランの承認、事業所との契約後、平成24年2月14日(診断後9ヶ月)からデイサービスの利用を開始した。これが介護サービスを利用した在宅介護のスタートである。

(障害者手帳と自立支援医療についても、介護保険とほぼ同時期に手続きを完了している)

◆平成30年11月現在(診断後7年半)の妻の状況等

要介護3(平成26年4月1日付~)、障害等級1級(平成24年12月20日付 障害年金)で、末期に入り、言葉の意味がかなりの部分でわからない、尿意もわからず便意もあいまい、でも、歩行には問題なく、食事私と一緒になら特に問題はない。月の半分はショートステイを利用しながら在宅介護を続けている。

昨年(平成29年)10月末から再開したデイサービスでは、スタッフの見守りの中で野菜を収穫、利用者専用の調理室で適度な大きさに切り刻み、フライパンで調理する。まだ新聞のコラム等を読むことができるので、それを目のご不自由な方に聞いていただいている。(2018年11月寄稿)





『今の今を大切に』

H・T

本人：71歳 アルツハイマー型認知症
発症：平成21年5月ごろ
介護者：夫

現在、発症から9年目ですが今は川崎市のグループホームで、ヘルパーさんの介助を受けながら何とか日々穏やかに過ごしています。家内の病気と向き合っ
て実に多くのことを学びました。

発症から4年間ぐらいは物忘れを始め幾つかの腑に落ちない出来事がありましたが、日常生活に支障をきたす事もなく生活ができていました。4年半が過ぎた頃から病状が進んだようなので注意深く見守るようになりました。

平成26年の年明けから積極的に散歩に出ました。子供たちも協力的でスポーツクラブ、ヨガなどに付き合ってくれました。それでもいつもとは行きませんので、デイサービスを利用することにしましたが、その頃は運動能力がまだあったので、サービス内容に馴染めず何処も無理でした。結局、家族で寄り添って行くことにしました。しかし、全面介護は家内にとっても自由を奪われ息苦しく不安と苛立ちから感情の起伏が激しくなり、特に私に対して風当たりが強くなり顔が合うと、いつも監視されているようで感じが悪いと言われ彼女との接し方が分からなくなってしまいました。

そんな時、ネットで彩星の会を知り参加させていただきました。体験者の話には説得力がありとても参考になりました。自分もついつい本音で愚痴をこぼしてしまいました。ありがとうございました。

その後も家に帰れなくなるほど命の危険を感じるようになり、少し前から考えていた施設への入所を決断致しました。本人への説得は難しく納得させるのは無理でした。行く先が地方だったので私もその近くにアパートを借りて引っ越しました。後悔はしていませんが、申し訳ないという罪悪感があります。一生引きずっていきます。

平成27年4月に入所しましたが、その後も毎日のように通い半年後に、初めて外へ連れ出しました。意外とスムーズに施設へ戻れたのでほっとしました。その後も何度も一緒に外出しましたが最悪だった二人の関係も修復されたようでよかったです。

しかし、施設は本人が外へ出てしまわないようにと個人の部屋に、外から鍵をかけてしまうので、本人の心情を考えて二カ月半で退去しました。その後、川崎のサ高住やグループホームに移り住みましたがいずれも介護拒否が強くヘルパーさんが対応しきれず、薬の変更や入院治療を勧められましたが納得できず退所しました。易怒(いど)性が強かったので対応が難しいことは承知しておりましたが、何とかならないものかと最後の願いと期待を込めて今のところ(川崎市のグループホーム)にお世話になる事にしました。

約1年の間に4回も引っ越し不安でしたが、今度のところで落ち着いてくれればと祈るだけでした。そして、平成28年5月に引っ越しをしました。最初の一カ月半ぐらいは薬の過鎮静等で体調を崩しましたが抗精神病薬セロクエルを止めてからは日増しに回復し今までの陽性症状から一変穏やかな家内に生まれ変わりました。

その後、順調でしたが昨年(平成29年)の秋ごろ風邪をひいたのに続き身体機能の低下を指摘され暮れに大学病院を受診しました。頭部CT検査では脳の萎縮以外には異常は認められませんでしたとのことで、リハビリ中心の対応を勧められました。3月には長年飲んでいたメマリーも止め、一時は抑性系の薬デパケンや抑肝散も服用していましたが、今は全部やめました。その後、中核症状の進行はあるものの少しずつ覚醒していて体調や表情が良くなっている様子も見えますが、正直、先のことは分かりません。

支えていただいている皆様に感謝して、これからもお互いに支え合っ
てその日その時、今の今を大切に
して過ごしていきたいと思っています。

(2018年11月寄稿)



お知らせ

■3月定例会&総会

日時：3月24日(日) 13:00～

(12:30受付開始)

会場：「新宿区立障害者福祉センター」

新宿区戸山1-22-2

13:00～総会(本人同伴)

14:00～沖縄出身者が主催する4人グループによる
エイサー踊り・南京玉すだれ・腹話術

15:00～家族会・本人交流会(時間があればゲーム
・歌を予定)

参加費：お一人500円

申し込み：ご本人同伴のかたは3月22日(金)までに
必ず事務局に電話を入れてください！よろしくお願ひします。

電話番号：03-5919-4185

■「彩星だより」の受け取りを郵送からメールでの受取りに変更しませんか？全面カラー版で、しかも数日早く見られます。お申込み方法→彩星の会メールアドレス hoshinokai@beach.ocn.ne.jp に

「彩星だよりメール受信希望」とお書きの上お名前も忘れずに送信してください。

■下記の方々からご寄付をいただきました。

◆2018年12月：吉田正樹様、森 義弘様、石井敏子様 *寄付総額 467,750円(1月～12月)

◆2019年1月：伊藤直子様、二見しづ子様、森 義弘様、渡辺正剛様、高橋正彦様、

水村弥生様、田所仁美様、千葉京子様

*寄付総額 81,000円(1月)

♥厚く御礼申し上げます！

■日頃のお悩み事を募集します 経験者、専門家から解決案を会報の紙面でお答えします

FAX、メールでお寄せください。匿名、ペンネーム可。(但しお名前と連絡先は記載願ひます)

FAX：03-6380-5100/メール：hoshinokai@beach.ocn.ne.jp

■ご相談・ご入会は彩星の会事務局までご連絡ください

【相談日】月、水、金10時30分～16時

電話：03-5919-4185 FAX：03-6380-5100

e-mail：hoshinokai@beach.ocn.ne.jp HP：http://www.hoshinokai.org

■年会費家族会員 5,000円賛助会員 A5,000円/B3,000円/C10,000円

■お申込み(ご入金)は下記振替口座宛てにメッセージを添えて願ひします。

郵便振替口座番号：00170-7-463332 加入者名：若年性認知症家族会・彩星の会



編集後記 早咲きの桜の便りもあるこの頃。想い出す、近くの桜並木を主人と歩いた時。何も話さず下ばかり見て歩いていた姿を・・・何を思っていたのでしょうか。次回の定例会、福祉センターの玄関の桜が咲いていれば、ご本人さん達の明るいお顔が見られるでしょうね。(メダカ)